

～低炭素社会への歩みを進め、 地球環境をまもろう～

『鳥羽・学校おひさまクレジット事業』を通じてCO₂排出の削減を

6月の環境月間にちなみ、今年も「環境でトーク」を実施しました。

今回は「～低炭素社会への歩みを進め、地球環境をまもろう～『鳥羽・学校おひさまクレジット事業』を通じてCO₂排出の削減を」をテーマに、市長と株式会社戸田家の寺田取締役社長と宍倉支配人、株式会社ウェストボックス環境ソリューション事業部の小川さんにお話をいただきました。

今回の対談は、新校舎が完成し、今回の事業の対象施設の1つでもある加茂小学校で行われました。

課長 まずは、みなさんに地球温暖化問題についての考えをお尋ねします。

市長 地球温暖化は世界的に非常に大きな問題だと認識しています。昔は、本当にエコな生活をしていました。特に、日本はわらの文化で、自然に生えてきた植物を燃料などにしてきたので、地球に及ぼす影響というのはずかであったと思います。現在は、一人ひとりが少しずつCO₂を排出し、それが地球規模でいうと、ものすごい量になっています。今後もCO₂削減に向け、より一層努力していくことが必要だと思います。

寺田 戸田家のエコ活動は、約20年前に一つの空き缶をきれいにしようということから始まり、その過程において温暖化防止やCO₂の排出量削減に大変興味が生れました。これからもCO₂の排出削減に大いに取り組んでいきたいと考えています。

宍倉 きれいな鳥羽の海や、自然のおかげで、わたしどもの旅館業、サービ

ス業が成り立っていると思います。資源につきましても、無限ではありません。いつかなくなります。また、自然を汚すとなかなか元には戻りにくいというのも事実です。そういう自然や資源の恩恵に感謝しながら、身近にある自然を守って、自然と共生していくのが一番大切であると、わたしどもは考えています。子どもたちや孫に今ある自然を残していくことが、後世に対する責任でもあると思います。

小川 弊社では工場や事業所のCO₂排出量の調査や、CO₂排出量を取り引きに使うカーボン・オフセットの仲介をしています。温暖化の影響は確実に進行し、ゲリラ豪雨やハリケーンが多発、また、作物への影響も表れてきています。

例えば、ワインづくりに必要なぶどうの適切な栽培地がだんだん北上しているという話も、温暖化の影響が確実に表れていると認識しています。今後のエネルギー問題などを考えつつ、地球温暖化防止に向けて、真剣に取り組んでいかなければいけない問題だと考えています。



東川 元洋
(環境課長)

身近なところから地球温暖化
対策について、進めていきたい

課長 地球温暖化はわたしたちの生活による環境への負荷が、大きな要因となり、将来の気候や生活環境に大きな影響を及ぼす可能性があります。また、震災で生じた全国的な電力の供給不足によって、節電対策やエネルギー消費の抑制が求められ、省エネルギーや再生可能エネルギーの利用などに関する意識は高まっています。市内でも、熱心にエコ活動に取り組んでおられる「株式会社戸田家」さんに、どのような取り組みをされているかお聞きします。

寺田 平成3年に、浄化能力が高いカキの貝殻を媒介物として、浄化槽に使い始めました。次に、大量に消費される空き缶に注目し、リサイクルしやすい缶の圧縮機を購入しました。中でも、環境問題に対する一番の転機はISO14001シリーズを取得したこと、各社員の分別、エコに対する意識が急速に高まりました。その後、食品残渣を「一般残渣」と「飼料向き残渣」に分別し、一般残渣のリサイクルで堆肥化した肥料を地元の農家のかたに無料で配布し、できた野菜を仕入れ、また、飼料向き残渣に関しても、鯛の養殖に使用しないかということ、研究・調査をしています。そのほかにBDF（バイオディーゼル燃料）があ

ります。天ぷら油が廃油として大量に出ますので、何とかリサイクルできないかということ、ディーゼル車のバスに入れて走らせました。これからも漁業や農業などに活用できる食品残渣のリサイクルを進めていきたいと思っています。また、昨年度には「鳥羽・学校おひさまクレジット事業」として、CO2排出削減量を買い取る国内クレジット制度を活用して鳥羽市教育委員会と契約締結いたしました。

課長 寺田社長から、国内クレジット制度のお話がありました。平成23・24年度に国内クレジット制度普及のため、中部経済産業局からソフト支援事業を委託されている株式会社ウェイストボックスの小川さんに「鳥羽・学校おひさまクレジット事業」について説明していただきます。

小川 国内クレジット制度は、京都議定書の目標達成のために欠かせない省エネ化を進めていくことを目的として開始されました。「中小企業や自治体自らの省エネ活動で削減したC



木田 久主一
(鳥羽市長)

子どもや孫たちのために、今ある
地球環境を守り、市としてできる
地球温暖化防止策を行いたい

O2排出量を権利化し、それを大企業に売却することができる仕組み」が国内クレジット制度です。この制度の普及啓発や、排出量をどのように権利化していくべきなのかということをサポートしていくことが、ソフト支援事業です。実際に、平成24年11月30日に行われた国内クレジット認証委員会、鳥羽市教育委員会の太陽光発電によるCO2削減計画が認証されました。

「鳥羽・学校おひさまクレジット事業」とは、鳥羽市教育委員会のCO2削減分を戸田家さんが買い取るという仕組みで、この制度を利用しています。

課長 この「鳥羽・学校お

ひさまクレジット事業」において、CO2排出削減量を買っていただく経緯、また事業所としてのメリットについて戸田家さんにお話しいただきたいと思っています。

寺田 弊社はエコ活動を行っている一方、電気や重油を大量消費してしまう企業ですので、何らかの形でCO2排出削減に対する協力ができないか考えていたところ、国内クレジット制度のお話をいただきました。特に、売却側が地方自治体の学校ということ、これから未来を担っていく子どもたちに対し、わたしたちが寄与できるというのは大変ありがたく、双方の



小川 晶子さん
(株式会社ウェストボックス)

温暖化対策やCO₂削減に取り組むサポートとして、CO₂の見える化に取り組んでいきたい

意思が合致したということ
で、賛同いたしました。

穴倉 鳥羽市からエネルギーの地産地消に取り組みたいというお話があり、排出削減の全量購入を決定しました。この事業は、県内初の取り組みで、弊社の生ごみ処理施設、リサイクルシステムの電気使用量に、教育委員会から買収した排出削減量を使用しています。今回、鳥羽市の幼稚園、小・中学校の太陽光発電を買い取らせていただくことで、環境教育にもつながっていただければよいと考えています。

課長 この「鳥羽・学校おひさまクレジット事業」について、市長としてどのよ

うに感じているのかお話しください。

市長 先ほどからお二人のお話をお聞きして、戸田家さんの取り組みには感心するばかりです。ディーゼル燃料や食品残渣のリサイクル、いろいろなところで先進的な取り組みをされていて、今回、学校の太陽光発電の設備で達成したCO₂排出削減量を購入するに至った環境に対する意識には、感服いたします。今回の国内クレジット制度の対象となるのは、安楽島小学校・弘道小学校・鳥羽東中学校・加茂中学校・かもめ幼稚園・加茂小学校の6施設となります。平成22年9月から平成25年3月までの

間の総削減量110tを約11万円で戸田家さんに購入していただきました。鳥羽市としても、このような事業をすることで、環境教育につながれば、何倍もの価値として返ってくるのではないかと思います。

課長 低炭素社会を実現するため、市ではどのような取り組みをしているか、市長にお聞きします。

市長 まず、平成20年度に「鳥羽市地球温暖化防止実行計画」を策定し、市役所内での取り組みとして、こまめに電気のスイッチを切る、昼休みの消灯、アイドリング運転はしない、緑のカーテン事業などを行った結果、職員の意識が向上し、現実的に排出ガスの量も年々減ってきています。

それから、毎月第2火曜日を『地球にやさしい日』として位置付け、庁舎周辺のごみ拾い、自転車や公共交通機関を利用するエコ通勤、残業のない日を設定するエコノミー残業デーを推進しています。また、住宅用の太陽光発電システム設置費補助事業では、平成18年度から24年度において、95





寺田 順三郎さん
(株式会社戸田家取締役社長)

CO₂削減に努力すればするほど、自分たちの利益や存続につながり、その延長が、環境を良くすることにつながっていく

件補助しています。市独自の事業として、「森と海きずな事業」を平成23年度から開始しています。今までは木を植えることが重要であると言われてきましたが、本市では、間伐で森を育てることに重点を置き、切った木をさまざまな目的で使用してもらうために無料で配布しました。この取り組みを今後も増やしていきたいと思っています。

課長 みなさんが取り組むべき、低炭素社会の実現に向けた地球温暖化防止対策についての意見をお尋ねします。

寺田 CO₂排出削減や、無駄なエネルギー消費をなくしていくことは、会社の経費削減につながります。企業が一番求めることは、売り上げを伸ばし、経費を削減することですが、経費削減の一環として取り組むと、CO₂削減にもつながっていくのではないかと思います。例えば、生ごみを自社で堆肥化し、それを農業や漁業に使用していただくことで、再度、良い食材が自分のところに入ってくる。それを拡大、拡張していけば、自分たちの利益や存続につながり、さらに、鳥羽に住むみなさん、あるいは地球の環境を良くすることにつながっていくと思っています。

小川 温暖化対策やCO₂削減に取り組む企業サポートとして、CO₂の見える化に取り組んでいきたいと思っています。こまめに節電を行い、緑のカーテンや、木を適切に間伐して管理し、CO₂を軽減させる取り組みは、すべて地球温暖化対策につながります。それが、具体的にどれだけ環境に影響を与えているのか、という一つの尺度としてCO₂を使用し、そのCO₂を見える化することで消費者に分かりやすく伝えられるようサポートしていきたいと思っています。

市長 今日来ていただいたかたがたの考えが、市民全体に行き渡ればと思います。世界中の一人一人が環



穴倉 秀明さん
(株式会社戸田家支配人)

自分の学校の上で発電しているものが、環境のために使われていることを子どもたちにも知ってもらいたい

境に対する意識を高めないと取り返しがつかないことになるので、子どもや孫のことを考えると、なんとかしたいと強い気持ちになります。間伐材を熱エネルギーとして利用するため、鳥羽市の木を使ってもらおうということ、薪ストーブ購入の補助金を今年度の予算に組んでいきたいと考えています。これからも地球温暖化防止に力を入れていくみなさんにいろいろご意見をいただながら、鳥羽市としても地球温暖化防止に対し、真摯に取り組んでいきたいと考えています。

課長 鳥羽市では、市民、事業者、行政などの多様な主体の参加・連携により、

